

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773100508		
法人名	医療法人 健山会		
事業所名	船引クリニック グループホームすみれ		
所在地	福島県田村市船引町船引字砂子田1-1,1-2		
自己評価作成日	平成23年8月13日	評価結果市町村受理日	平成23年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成23年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員と利用者との信頼関係が厚い</li> <li>・利用者の希望に応じ、個人での外出、施設での外出等の機会を作っている。</li> <li>・医療機関との連携が取れているので、身体の変化にすぐ対応でき、安心できる環境を整えている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 同敷地内に法人のクリニックが併設されており、利用者の状態によって常に適切な医療が受けられる体制になっている。</li> <li>2. 法人として多角的に介護サービス事業を行っており、その利点が活かされた運営となっている。</li> <li>3. 研修等を計画的に実施し、職員の資質の向上に向けての取り組みが顕著であり、全職員が自己研鑽に励んでおり、資格取得にも積極的に取り組んでいる。職員の定着率が高く永年勤続者が多い。</li> </ol>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員会議で話し合っ作成した。又、職員は、理念を記載したものを携帯し認識を新たにサービスにあたっている。外来者に見えるところに掲示している。	理念は地域密着型サービスを踏まえたものとなっている。職員は名札(カード)の裏側に印刷された三つの理念を常に認識し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	軽度の方が増えたので、地域へのお祭りの参加の他、グループホームの行事へ区長さん等の参加をお願いし交流の機会を作っている。	地域の行事には積極的に参加し、交流している。近隣の幼稚園の園児との交流や中高生のボランティアも受け入れており、利用者の楽しみとなっている。日課の散歩では近隣の方と挨拶や言葉を交わし、交流が深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、区長さんや組長さんに参加していただき、認知症の理解や相談の窓口になれるよう話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	メンバーの方々は、地域の情報など、様々な情報を持っている方々なのでサービスの向上につながっている。	運営推進会議は定期的に開催している。会議では事業所の情報を積極的に公開しており、委員からは地域の情報や提言等があり、出された提言等は運営やサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報の交換や不明な点などに関しては、市役所へ訪問し確認をしている。	行政担当者とは事業所の実情や利用者の法的相談等を通して、連携に努めている。外部評価結果の提出時にも情報の交換をしている。事業所の行事への参加も依頼している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修に参加したり、スタッフ会議などで話し合いの場を設けたり、身体拘束禁止の認識を高めるよう努力している。	全職員が研修会等を通して、身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解しており、拘束のないケアの実践に努めている。玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等を行い職員同士で虐待防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議メンバーの包括支援センターの方々から勉強会の機会を作っていただき内容や必要性などを理解することができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者又は家族と話し合いの場をきちんと設け、理解・納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望がある場合には、すぐに話し合い、できるだけ早く解決できるよう努めている。又、運営推進会議でも話し合いができるようにしている。	家族の面会時や利用者の状態報告の際に、家族の意見を把握するように努めている。利用者の意見は日常のふれあい中から把握し、サービスの向上や運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等でも意見・要望を聞き、反映できるようにしている。	定期的に職員会議等で職員の意見を聞いており、職員からは業務上の意見や提言が率直に出されている。出された意見は全員で話し合い運営に反映させている。また、日常的に意見や提言を話しやすい雰囲気となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修や社内研修の機会を持ち、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて研修会に参加し、一人ひとりが力を出せるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や社内研修の機会を持っている。包括支援センターを中心に集まりの機会をもつことができ、情報の共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔やうなずき、スキンシップをとり本人の思いに耳を傾け、信頼関係を築きながら、安心が確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いの機会や面会時に話を聞くようにしている。必要時には居宅に行き情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの現状、要望により必要とされるものを見極め、支援している。又、入居後も、ご家族の協力が必要であることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事への参加や日常生活の家事等を一緒に行うことによって支えあう関係を大切にしている。 お互いに労いの言葉をかけ合える関係ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等への参加を促したり、面会の機会を多くもっていただくよう声かけを行っている。面会時にはホームでの生活状況等を報告したり、記録等で状況を知っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所している年齢は高くなってきたが、外出等の要望もあるので、体調面に注意しながら外出できるようにしている。	利用者の友人等の訪問があり、継続できるよう支援している。敷地内の各事業所との交流を通して馴染みの知人との交流がある。また、利用者の希望により、馴染みの場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で支え合えるように座席の工夫や気の合うメンバーでの外出等や気分転換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、退所後でも気軽に立ち寄っていただけるよう話をしている。 又、退所後でも家族にあった時は状況等を聞き、家族との交流に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が本人の視点に立って希望・思いをくみ取り、本人に確認している。 又、意見を出し合い話し合っており取り組んでいる。	利用者とは食事での会話や散歩の時、居室でゆっくりおしゃべりをする機会等を捉え、意向の把握をしている。意向を表せない利用者に対しては、表情やしぐさ等で把握するようにしている。把握した意向等は全職員で共有しサービスに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人または家族に生活歴など伺うように努めている。又、本人や家族との信頼関係を築きながら、今までの暮らし、出来事を伺い、自分らしく暮らせる手がかりを見つけることを積み重ねている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らしにそって、できること、できないこと、わかること、わからないことを全職員が意識して暮らしの中で発見していくことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に思いや希望を聞き、職員間で意見を出し合い、話し合った結果をもとに、作成アセスメント、モニタリングを繰り返し、期間ごとに見直し、要望の変化に応じて行っている。	個別記録をもとにモニタリングを行い、利用者の現状を把握し利用者本位の介護計画を作成している。状態に変化があった場合には随時検討会議等で話し合い介護計画の変更をしている。現在計画書に沿った記録の仕方について検討中である。	サービス計画書に沿った支援記録の方法は全職員で検討をし、わかり易く、使い勝手の良いものを皆で工夫されることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実施、気づきや工夫を記入し、申し送り帳を使用して職員間で密な情報を共有できるようにしている。記録をもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所時、できる範囲で利用者の生活歴などを伺うようにしている。又、その時々利用者のニーズに合わせ、本人に合わせた支援が提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会に民生委員や地域包括センター職員等に参加して情報交換している。又、家族の方などにもいろいろ情報を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科は市内の病院へ家族付き添いで、歯科は車イスの方は訪問歯科にて対応している。	利用者全員が同法人の医療機関をかかりつけ医としており、利用者の状態によって週1回から2回の往診があり、常に適切な医療を受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態について、介護職が報告、相談し、情報を共有しながら、利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時はお見舞いに伺い、その時に関係者から状態を聞いたり、家族からも情報を得ている。 又、いつも受入れができるようベッドや備品の準備を行い態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族から終末期に関して確認をとっている。 医療や家族・事業所で話し合い、方針の統一を図っている。	重度化や終末期の対応については、事業所の指針を定めており、利用者および家族に十分説明し、理解を得て実践している。また、職員は常に情報の共有をしながら支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応、緊急時に対応できるようマニュアルを作成し、勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の実施。夜間や実際に起こるような状況を想定しての訓練の実施を行っている。	総合防災訓練は年2回実施しており、消防署立会いでの訓練も実施している。火災報知機の使用方法や職員間の伝達訓練等も実施しており、事業所独自の自衛消防組織もある。備蓄品も整備されている。	今後は災害時に全職員が的確に避難誘導できるように、地震時の対応も含めて、多様な災害を想定した避難訓練を数多く実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に声掛けや対応を行っている。	全職員が理念に謳っている「優しく思いやりのある対応」を基本に利用者の尊厳を大切に支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の考えではなく、利用者のペースに合わせて利用者の思いや、希望に耳を傾けるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	軽度の方の利用者が増えたが、体調等に注意しながら本人の希望に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や理容をしている。又、季節のかわりめには服を一緒に買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理(準備)や片付けも利用者の協力を得て行っている。 希望に応じ外食・出前も行っている。	利用者は出来る範囲で食事の準備や後片付けを職員と共に行なっている。利用者は職員と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。また、常に利用者に食事の希望を聞いて献立に加え、食事が楽しいものとなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残し、水分は本人に合ったもの(好むもの)を出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、利用者に合わせた排泄支援を行っている。 全日オムツ使用者はなく、トイレでの排泄ができるよう声掛けしている。	トイレでの排泄を基本に支援しており、利用者の排泄のリズムを把握して対応している。 終日オムツ使用者はなく、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、医療との連携を図ること、食事面でもヨーグルトなどで排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状況に合わせて入浴していただいている。入浴剤などを使用したり楽しんでいただいている。	入浴は利用者の希望を優先して支援している。入浴拒否者には声かけのタイミングや職員を変えて対応している。また、散歩に誘い少し歩いてから戻り、そのままお風呂場に誘導して無理なく入浴してもらうなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその時々状態に合わせている。 又、寝具の衛生管理も必ず週1回は行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は、作用・副作用など注意する事を医師・専門の方に聞き、申し送り・会議等で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴などを知ることで本人の力が出せるように支援している。 玄関の掃除や、植木の水やり、家事の手伝いなど、役割をもって生活していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の良い時期は、施設周辺の散歩に出かけたり、近くの店へ出かけたり、職員の付き添いのもと外食の機会を設けている。	事業所では季節ごとにお花見、紅葉狩りなど外出の機会を多く企画し実践している。季節にもよるが散歩や買物は週2、3回実施しており、特に馴染みのお店での買物や外食は利用者の楽しみとなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族等の希望に合わせており、外出した時などは支払いの機会を持てるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等の使用は自由にできるようにしており、静かな場所で周囲を気にせずに話ができるような声かけ環境作りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事中や夜間のテレビ音量に気を付けており、花や季節の飾り付けを工夫している。空気の入れ替えや光にも気を付けている。	共用空間は明るく空調等も適切に配慮され、居心地よく過ごせるよう工夫されている。畳のスペースもあり、これからの季節には炬燵も配置され、利用者が思い思いの場所で自由に過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先や廊下にソファを置き、自分の好きな場所で過ごせるようにしている。事務所等への出入も自由にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	本人と家族の自由にしている。 使い慣れた物や馴染みの物、家族写真などを持ってきていただいている。 又、ホームでの思い出も大切にさせていただくために、自分で作った作品や写真も飾っている。	居室は利用者がそれまでの生活が継続できるよう使い慣れた家具やテレビなど自由に持ち込み、安心して生活できるよう配慮されている。利用者それぞれ個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレには目印を付け、居室前には自作プレートを飾ってある。		